

中間層という生き方
2025. 5. 20
2025. 3. 21

モノと資産（資本。資本とは、新しい価値を記したノートである。）の量が1対1だと普通と書いた（●2027年発表予定随筆23作目参照）。今は、それが1対2などとモノが相対的に少なくなっている。だとしたらである。労働を増やして、モノを多くすればよい。ようするに、資本家（新しい価値を記したノートを書く人である。）が、いったん仕事をやめて、労働者になれば良いということだ。専門の資本家でも、専門の労働者でもない、こういう生き方を中間層と言う。

私は、これまで気づいていなかったが、非正規労働者という仕事が、日本の中にできた。これは、給料が低い、生活が安定しないなどと、これまで悪く言われることが多かった（主に、社会主義者がだろう。）この仕組みを利用すれば、資本家が、労働者となれる（労働者が、資本家となれる）。ようするに、モノと資産の比が1対1になるようにできるということだ。資産のほう相対的に少なくなったら、また、資本家をやれば良い。

この制度が日本にできたということは、日本人が中間層になれるようになったということだ。悪い話ではない。非正規労働者を増やした張本人だと、ある人が批判されるが、その人は、中間層を拡大しようということをやっていた。悪いのは、ある人の給料が安かったり、資本家の仕事をしなかったことであろう。これは、進歩である。今は、モノが足りないので、資本家の仕事ではなくて、労働者の仕事をしましょうということだ。

eizo@eizo09.com
エイゾウ